



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて

～オリパラ史上初の延期…“東京2020”は2021年に!～

▶はじめに

今回は、東京2020パラリンピック本大会までの諸々やパラ水泳の競技規則についてお伝えしました。

今回は、2021年に延期となった東京2020パラリンピック競技大会について現状などお伝えしたいと思います。

▶“東京2020”は2021年に開催へ!…

ここでわざわざ記載する必要がないほどの世界的な大ニュースとなりましたが、オリンピック・パラリンピック史上初めての開催延期が3月24日に発表されました。

当初は「1年程度」の延期ということでしたが、その後、延期された東京2020パラリンピック競技大会については、2020年開催日程と同様の時期、同様の曜日の設定を「1日スライド」した“2021年8月24日(火)に開会式、9月5日(日)に閉会式”というスケジュールが公表されています(2020年6月5日現在)。



●IPCホームページ

<https://www.paralympic.org/>



▶東京2020パラリンピック大会の水泳競技

延期前の水泳競技の競技日程スケジュールについては、前回、次にお伝えしました。

- ・水泳競技は8/26(水)から9/4(金)までの10日間
- ・午前に予選、午後に決勝
- ・午前セッション9:00開始、午後は17:00開始

しかし、延期の発表後、現時点では、2021年開催の東京2020パラリンピック大会の競技スケジュールについてはまだ発表になっていません。

IPCにより、東京2020大会に向けて、水泳競技の選手枠数、実施種目、枠配分方法、MQS(標準記録)について変更のないことは発表されています。ただし、2020年に予定されていたWPS公認のワールドシリーズ大会などの中止や延期に伴い、国際クラス分け実施およびMQS獲得に影響を受けるタイムラ

インなどについては修正されています(今後のワールドシリーズ大会などによりさらに修正される可能性があります)。

〈参考〉選手枠の配分方法などは、『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています。

https://www.paralympic.org/sites/default/files/2020-05/2020_05_27%20Tokyo%20QG.pdf (最新版は2020.5月版)

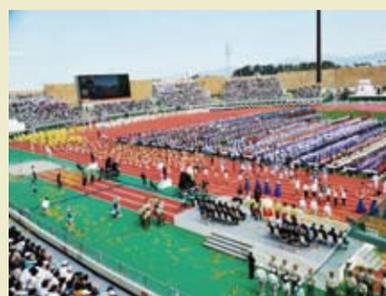


▶2020前半のパラ水泳競技会は…

2020前半においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、国内外のほぼすべてのパラ水泳競技会が中止または延期となっています。

WPSの2020年ワールドシリーズ大会は、2月に豪州メルボルン大会が開催されましたが、その後の6つの大会については相次いで中止または延期となっています。国際クラス分けのスケジュールなど、調整に次ぐ調整がなされ、しかし新型コロナウイルス感染症に関連した渡航制限などから、その後も大会が中止されるなど、参加を予定していた選手団や競技役員、

東京1964大会のレガシー



昨年の全スポ「いきいき茨城ゆめ大会」は台風の直撃により中止、今年は10月に「燃ゆる感動かごしま大会」が予定されていますが、新型コロナウイルスの影響が懸念されています

先日、全国身体障害者スポーツ大会の第1回のプログラムを見せていただく機会がありました。1965年に岐阜県で開催され、水泳競技には118名が参加したと記載されていました。

今と比べると、こじんまりとしたものだったのでしょうか…想像することしか叶いませんが、障がいのある人がスポーツをする、しかも水泳をする、というのは、この時代の社会や人々の目にはいったいどんな風に映ったのでしょうか。

現在の「全スポ」(全国障害者スポーツ大会)の第一歩となった大会で、現在とは障害区分も異なります。ストックマンデビル大会の障害区分などの影響を強く受けている印象でしょうか。東京1964大会の遺産(レガシー)として、今も脈々とその継承が続いています。

2018年の全スポ「福井しあわせ元気大会」の水泳競技の様子



WPS、各大会の事務局なども、これまで経験したことのない状況が続きました。その後現在に至っても、スポーツ界のみならず地球規模での混乱が続いている、と言っても過言ではないと思います。

WPSは、9月1日までは競技会は開催しないということを表明しています。各国の情勢をみながら今後調整を試みていくのだと思われますが、感染拡大のある国もあり、まだまだ見通しが立たない状況かもしれません。2021年に延期された東京2020本大会をにらみ、多くの選手がMQSを達成すること、代表選考をにらんで少しでもいい記録で泳ぐことを目標に、経験したことのない「非日常の毎日」の中で調整に奮闘しているのではないのでしょうか。

また延期された東京2020大会に向けて、設定された期限までに国際クラス分けを受けなければならない選手(ステータスがRやR2020など)については、今後のスケジュール調整にはさらに注意が必要です。2021年開催になることからR2021ステータスの選手についても国際クラス分け受検が必要となりますので、各国は、自国選手のステータスや状況をしっかり把握し、国際の動向を見極めつつ、情報が入り次第、柔軟に対応していく必要があります。

国内においては、5月に予定されていた2020ジャパンパラ水泳競技大会が中止となりました。

各地域連盟主催の地域大会についても中止となっています。

2020年後半については、状況をみながら、様々な組織などが連携した活動再開にむけての調整が進められているところだと思えます。

●WPS2020年ワールドシリーズ大会の開催状況

開催日	開催地	開催状況
2/14-16	豪州/メルボルン	開催
2/27-3/1	イタリア/リニャーノサビアードーロ	中止
3/25-28	ブラジル/サンパウロ	中止
4/9-12	英国/シェフィールド	中止
4/16-18	米国/インディアナポリス	再調整中
5/1-3	シンガポール	中止
6/18-21	ドイツ/ベルリン	再調整中

●国内の主な大会の開催状況

開催日	大会名	開催状況
1/13	第3回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会	開催
3/6-8	2020パラ水泳春季記録会兼2020日本代表選手選考戦	中止
5/22-24	2020ジャパンパラ水泳競技大会	中止
6/14	第23回日本知的障害者選手権水泳競技大会	中止

パラ水泳競技規則

●タッピング

視覚障がいの選手について、壁が近づいたことを知らせるために、タッピングデバイスと言われる棒状のもので選手の身体をたたくなどして合図を送ることをタッピングといいます。

視覚障がいはS/SB/SM11~S/SB/SM13の3つのクラスがありますが、S/SB/SM11クラスについては、タッピングはルール上必須となっています。

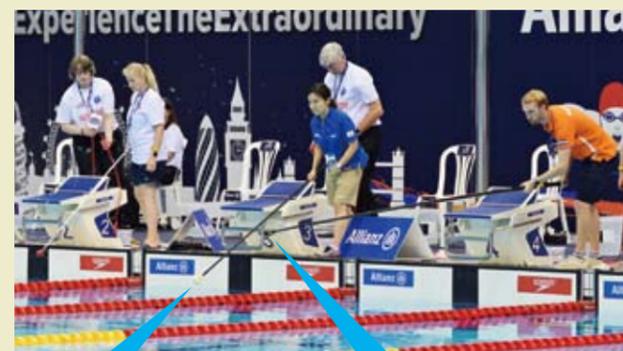
タッピングデバイスは、釣竿やタモ(釣り用の網)の棒状の部分に、こぶし大サイズの柔らかい発泡スチロール材(ビート板などを加工)をつけたものが多いように思います。竹や白杖を使っているもの、テニスボールやゴムボールを使うなど、各国手作りで工夫をこらしています。

タッピングでは、選手の背中や肩あたりをたたくケースが多いように思います。後頭部をたたく場合も見られます。国際競技会ではその国のチームに帯同しているコーチやスタッフがタッピングを担います。

●不透明なゴーグル

S/SB/SM11クラスにおいては、不透明なゴーグルを装着することもルール上必須となっています(両眼義眼など例外あり)。

昨今は、国際競技会で活躍する選手になると、このパラ水泳S/SB/SM11クラス用に不透明な素材で作られたゴーグルを使っていることが多いですが、ひと昔前は、通常の透明なゴーグルの内側にガムテープやバンドエイドを貼り付けているものやゴーグルの内側をプラモデル用の塗料で塗りつぶしているものなど手作り感満載のものが見られました。



日本のタッピング棒は、釣りで使用されるタモ網の伸縮する棒の部分に、ビート版をしゃもじ型に削って接着したものが多くあります

オランダは伸縮する棒の先端にゴムボール付けています。他の国より長く、選手を叩く位置も遠目でタイミングも早めにしていました



木村敬一選手がレース時に着用する非透明なゴーグルです



審判はゴーグルを光にかざして不透明かどうかをチェックします